

第2節 「国鉄 = 悪」か？

国鉄は全国一元管理という巨大組織だった。このために時代の変化についていけなくなったことは確かである。また昭和30年代からすでに明らかになっていた組織的な矛盾（公共性と採算性の両立を求められつつ経営者に当事者能力がなかったこと）も解決されなかった。両方がお互いに増幅しあって、ついに国鉄は倒産に至る。しかし国鉄には、全国が一元管理されているメリットもあったのである。国鉄無くしては戦後の日本の復興は無かったし、終戦後5年間で人口が倍増するような東京の大ラッシュをさばき切れなかったであろう。国鉄改革期の国賊という言葉まで使われた国鉄憎しの大合唱は、こういった国鉄のメリットを無視したセンセーショナルリズムの産物である。（このことについては第2章第3節を参照されたい）